

武蔵台の雑木林と国分寺への道

国分寺跡や国分尼寺跡を巡り、鎌倉古道を歩く歴史の香りに満ちたコース。
国分寺崖線の自然ともふれあえます。

あかまつ林



アカマツの群植を見る

北府中駅から北府中公園、ケヤキ並木の歩道を通り、府中刑務所の塀沿いに歩いてあかまつ林に向かいます。ここでは貴重なアカマツの群植が見られます。また、都立府中高校の正門脇にアカマツがあります。府中高校は昔、「赤松学園」という女子高でした。

国指定史跡武蔵国分寺跡



奈良のいにしへの思いを

国指定史跡武蔵国分寺跡の北側入口に、周辺案内図があります。奈良のいにしへの思いをさせながら国指定史跡武蔵国分寺跡の金堂や七重塔の礎石を巡ったら府中街道の方向へ。途中、国分寺市文化財資料展示室(無料)があります。



武蔵国分尼寺の金堂跡

JR武蔵野線の高架下をくぐると国分寺市立歴史公園武蔵国分尼寺跡に出ます。国分寺は僧寺と尼寺で国分二寺ともいい、尼寺は僧寺に比べ小さくつくられたようです。柱の立つ金堂跡は不思議な雰囲気空間です。道路をはさんで黒鐘公園。そこから伝鎌倉街道へ。

国指定史跡武蔵国分寺跡

国分寺は、天平13年(741年)に聖武天皇の詔により、国家の平和を願う疫病の流行や飢饉などの災いから守るため、全国に建立がすすめられました。武蔵国分寺もその一つです。現在の国分寺の南に古代の国分寺跡がありますが、当時の広さは概ね東西1.5km、南北1kmに及び、全国屈指の大きさに講堂・金堂・僧坊・七重塔などの伽藍が配置されていたようです。

大正11年、国の史跡に指定されました。

所要時間：約2時間40分
6.4 km



武蔵国分寺参道口跡



国指定史跡武蔵国分寺参道口跡が

学園通りから万作の木公園へ。マンサクは花びらが1本の線のような形をした黄色い花で、名前の由来には、花が多いので豊年満作から、あるいは春真っ先に咲くからといった説があります。ここには平成17年に国の史跡に指定された武蔵国分寺参道口跡があり、奈良～平安時代に、武蔵国府と国分寺とを直接つなぐ参道が存在したと見られています。

武蔵台遺跡公園



伝鎌倉街道



伝鎌倉街道の遊歩道に行く

鎌倉街道とは、幕府のあった鎌倉と各地を結ぶ道路の総称です。この伝鎌倉街道は、武蔵国を通る主要道路の一つ、「鎌倉上道」の名残と言われており、国分寺崖線を切通した約120メートルの道が、国分寺市の重要史跡として保存されています。切通しを抜け武蔵台遺跡公園へ。縄文時代の敷石住居跡が復元されています。

武蔵台公園

国分寺崖線は多摩川の河岸段丘の一つ。武蔵台公園では、その崖線部分が雑木林のまま保存され、コナラやクスギ、アカマツなどが急勾配の斜面に見られます。この武蔵野本来の姿を残していくために、市民と市が協力して保全に取り組んでいます。

武蔵台公園



武蔵台公園から黒鐘公園へ

むさしだいいこみちから西に進み、新府中街道へ出て坂を下りますが、脇道の白明坂を通るコースもあります。白明坂は、討幕の兵を挙げた新田義貞が、幕府方に攻め込もうと分倍河原へ向けて疾駆するも、ここで夜が明けてしまったことに由来すると言われています。武蔵台文化センターで一息ついたら、武蔵台公園から段丘の道を国分寺緑地黒鐘公園に進みます。国分寺市立歴史公園武蔵国分尼寺跡を経て府中街道に出れば、ゴールの黒鐘公園入り口バス停です。

京王バス黒鐘公園入り口バス停

11 武蔵台文化センター
約5分
10 武蔵台公園
約35分
8 伝鎌倉街道
約5分
7 武蔵国分尼寺金堂跡
約15分
6 武蔵国分寺跡
約35分
4 武蔵国分寺跡
約35分
3 万作の木公園・武蔵国分寺参道口跡
約35分
2 あかまつ林
約35分
1 北府中公園
JR北府中駅

